

# ふな はし 舟橋 たかゆき

たてやまの勇氣(60才)



国の補助事業を活用した公共施設の複合化で、  
**次世代に過度な負担を残さない、**  
**コンパクトなまちづくり**

**1** 「かつては、物流の拠点、賑わいの中心でもあった五百石駅周辺、町の中心部が寂しくては、この町で生まれ育った者は、この町に誇りが持てなくなってしまいます。また、中心がしっかりしていないとまちづくりはできません。もちろん、行政にできることには限りがあります」

町制70周年記念式辞(2025.2.10)から

## POINT

**1**

五百石中心部が賑わっていたがために、道路に面している敷地が狭く、軒を連ねている。また、狭い路地のみに面している家は建て替えができません。さらに土地の境界が確定していないと売買が進みません。

そこで、2011年から、土地の境界を確定させる地籍調査事業(国1/2 県1/4 町1/4※特別交付税措置により町の実質負担は1/20、地権者の負担はゼロ)に着手しました。地権者の了解を得たところから測量し、立ち合いなどで10年余りかかっています。



(仮称) マチの駅のイメージ(南東側から)

## ●2025年

### 国土交通省の都市構造再編集集中支援事業に採択

歩道を拡幅し、民間の投資を促します。「(仮称)マチの駅」は、2024年12月に類焼したまちなかファームの後継施設。町外から訪れる人と地域住民が触れ合う場所を目指し、夏頃に着工します。財源は内閣府の交付金と火災保険金です。

## POINT

**2**

### ●2012年 立山町元気交流ステーション(みらいぶ) 竣工

旧保健センター(土地は売却済)、町社会福祉協議会・老人福祉センター(旧佐伯会館の一部を解体し、立山町土地改良区に譲渡)、図書館(旧町民会館の一部)を移設。役場庁舎内の健康福祉課も移設。国土交通省のまちづくり交付金を活用

### ●2025年 立山町防災児童館複合施設(アカリエ)

町民会館、旧西部児童館、水防倉庫職員待機所を統合。公共施設として

は北陸初のZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) 年間のエネルギーの収支をゼロ)

環境省と子ども家庭庁の補助、総務省の緊急防災減災事業債を活用し、町の実質負担は全事業費18億円のうち32%の5.8億円



元気交流ステーション(みらいぶ)

**2**

「その数少ないできることのひとつが、次世代に過度な負担を残さないために、複数の公共施設をまちなかに集約し、複合化することでした。平成24年に竣工した元気交流ステーション『みらいぶ』がそれであり、今年1月に竣工した、防災児童館複合施設『アカリエ』も同様の方針で進めました」

町制70周年記念式辞(2025.2.10)から

# たてやま再起動2026



## その1 農業

### 法人化による持続化や 担い手に寄り添った支援体制

担い手不足が懸念される地域に担当職員又はOB職員を配置。多面的機能支払い交付金の事務処理、基盤整備や大型機械導入などの補助申請を支援します。

## その2 町営バスを再構築

### AI技術を活用した 予約制の乗合ワゴン車を運行

自宅そばの集落公民館等から、医院やスーパーなどに直接出かけることができるようにし、バス運転手不足にも対応します。

## その3 地鉄立山線

### 重軌条化(重いレール)や新型車両導入 により、安全で省エネな鉄道を実現

立山線のうち、岩峠寺駅から立山駅間については、令和9年度から国の鉄道事業再構築事業(国1/2、県1/4、富山市と立山町で1/4を負担)の採択を目指します。



## その4 立山方式

### 家計支出を抑えるために、剪定枝の回収 事業を拡大。古紙回収ステーションを 増やします。

富山市がごみ有料化(45ℓ袋で45円)し、減量に成功すれば、その分、他の自治体の負担が増えます。富山市を上回るような減量施策が必要です。

その他…  
物価高騰により、  
経済的に厳しい  
家庭を支援

## その1 子育て家庭 学校給食費

小学校分を無償化(国の支援措置の不足分は町が負担)します。なお、立山町では経済的に厳しい家庭には、平成24年から無償化にしているので、学用品などの購入支援の増額をします。中学校分は、物価高騰を考慮した支援措置を検討中。

## その2 国7年度補正予算「物価高騰対応重点支援地方創生交付金」を

- ①住民税非課税世帯(約1800世帯)にたてポ1万ポイント。
- ②児童手当対象者(18歳以下)に1万円。 ※①と②は令和7年12月議会で可決済。
- ③2月 その他の物価高対策を議会と協議・決定します。

## 舟橋貴之プロフィール

### 経 歴

1965 5月17日生まれ(60歳) 利田小、雄山中、富山東高校卒  
1988 明治大学商学部卒  
河野洋平事務所の方針により、サラリーマン1年経験後  
1989 河野洋平秘書(8年間)  
1997 妻と長女を連れて帰郷  
1998 立山町議会議員(32歳) 当時、県内最年少議員 2期連続トップ当選  
1999 県内の若手市町村議会議員で構成する政策勉強会「政策フォーラム34」を設立、代表  
2006 立山町長に当選(40歳)

### 現 職

全国中山間地域振興対策協議会  
常任理事相談役(前会長)  
全国観光地所在町村協議会 副会長  
富山県町村会長



2025年4月  
河野洋平先生(88歳) 内閣官房  
長官時に富山で媒酌人をお願い  
しました



HP



Facebook



@FUNAHASHITAKAYUKI

### 30年目 校友代表



1988年(昭和63年)3月 商学部卒業  
舟橋 貴之 富山県立山町長

不正な金の力によって政界に絶大な影響力を保持していた田中角栄元首相とその流れを組む政治(田中のなるもの)を打破したいと雄略部に入り、「政治倫理確立」と渋谷ハチ公前などでの遊説や選挙に明け暮れていました。遊説中、三木武夫(元首相)先輩からの差し入れがあり、感激したことを覚えています。一番の楽しみは秩父宮ラグビー場に行くことでした。「前へ」が、私の人生にどれだけ勇気を与えてくれたかわかりません。

1988年(昭和63年)3月 商学部商学科卒  
1989年(平成元年)4月 衆議院議員河野洋平秘書(8年間)  
1998年(平成10年)2月 立山町議会議員(2期8年間)  
2006年(平成18年)2月 立山町長(4期目13年目)

2018年10月28日  
『ホームカミングデー』  
明治大学商学部  
卒業30年目代表でスピーチ

